

平成21年3月31日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2006～2009

課題番号：18530190

研究課題名（和文） 東アジアのコンテンツ産業におけるネットワークのメカニズムと
地域経済協力研究課題名（英文） The Network Structure of Creative Industries and the Regional
Economic Cooperation in East Asia

研究代表者

安田 武彦（YASUDA TAKEHIKO）

日本大学・商学部・准教授

研究者番号：30246805

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経済学・応用経済学

キーワード：産業論

1. 研究計画の概要

東アジアのコンテンツ産業（クリエイティブ産業）を取り上げて、そのイノベーションを生み出すプロセスを明らかにし、欧米諸国との比較分析を行う。焦点を当てて調査と分析を行うのは、クリエイティブ産業でイノベーションを生み出すネットワークのメカニズムとそのガバナンスである。東アジアの各国・地域におけるネットワークのメカニズムを分析し、取引構造、知識移転、人的資源の流動性などを明らかにし、欧米の事例と比較し分析する。そしてコンテンツ産業におけるイノベーションを活性化するネットワーク構造とメカニズムとは何か考察していく。あわせて、政府のクリエイティブ産業政策を調査し、いかにしてイノベティブなクリエイティブ産業クラスターを構築しようとしているのか分析を行う。またネットワークは国際的にも展開されている。ネットワークを通じた国際的な事業展開が、東アジア域内および東アジアと欧米間の文化交流を活性化している。このことが東アジアにおける文化の多様性と融合にどのような影響を及ぼしているのかもあわせて考察し、地域経済協力への提言を行う。

2. 研究の進捗状況

18年度より20年度まで東アジアの韓国、シンガポール、香港、台湾において調査を実施し、クリエイティブ産業のクラスター内で創造的環境を形成するために、どのようにネットワークを構築しようとしているのか調査し分析を行ってきた。そのうち韓国については、コンテンツに対する消費者のニー

ズと企業の戦略対応について明らかにするために、韓国・慶熙大学の朴基岸教授と共同研究を行った。韓国と日本における消費者行動と企業戦略を比較し分析した朴教授との共同研究の成果の一部を、研究論文として共同発表した。

そして米国及びEUの英国、フランス、ドイツにおいてクリエイティブ産業クラスターの調査を行い、クラスターが生み出す知識外部性に焦点を当てた分析を行い、東アジア諸国と国際比較を行った。クリエイティブ産業の特徴として、プロジェクト・ベースである点が重要であり、作品やサービスの創出のためには、異なるコンピテンスをもつ人々を集めて新たなプロジェクト・チームを短期で創り上げる必要がある。そのためには多様な知識労働者が集積していなければならない。多様な労働市場が形成されるためにはクラスターにおいて寛容性が高くなければならない。そのような創造的な「場」がグローバル化した都市であり、そして形成されたクリエイティブ産業のクラスター内では知識外部効果が高く、多様な知識の迅速な組換えが可能となることが明らかとなった。このような創造的な「場」の形成に政府の果たす役割は大きいので、各国政府のクリエイティブ産業に関する産業政策・文化政策の国際比較研究も行った。これらの研究に関連して、シンガポールに関する研究成果の一部を論文として発表した。また香港と台湾についても成果の一部を論文として発表する予定である。

また東アジアにおける持続的経済発展の

ためには、地域におけるクリエイティブ産業などサービス産業の発展、サービス取引の拡大を図る必要があり、そのためには東アジアにおいて、知的財産の保護、規制緩和など新たな制度構築に関する地域経済協力を行う必要がある。これに関連する今までの研究成果の一部をまとめて、中国・青島科技大学で開催された韓国流通学会主催の国際シンポジウムにおいて研究論文の発表を行った。今後もこの点を重視した研究を継続し、東アジアにおける地域経済協力にむけた政策を立案する予定である。

3. 現在までの達成度

当初の研究目的の達成度については、全体的には、おおむね予定通り順調に進展していると思われる。その理由としては、東アジアでも一人当たり GDP が 1 万ドルを超えている先進的地域であるアジア NIEs を中心に、クリエイティブ産業を調査していることがある。これらの国・地域では、今後の最も有望な産業としてクリエイティブ産業を育成していることもあり、産業が成長しつつあるからである。そのことを反映して、東アジア各国のクリエイティブ産業に関する国家政策に関する調査と分析に関しては、予定より順調に進展しており、またクリエイティブ産業の先進国である米国や EU 諸国の国家政策との国際比較も進展しつつある。

東アジアにおけるコンテンツ産業のネットワークの分析では、映像コンテンツなどを中心に順調に研究が進展している。シンガポールと香港に関しては、予定通りに調査と分析が進んでいる。韓国と台湾に関しては、調査により資料収集が進んでおり、分析を開始している。

東アジアのコンテンツ産業における地域経済協力については、資料の収集を行ってきた。今後はシンガポール、台湾、韓国などの研究者との情報交換や議論を重ねて、国際協力の政策立案につなげていく。ただ日本やアジア NIEs にとって、中国がコンテンツの大消費地となっており、今後この点を踏まえて東アジアにおけるコンテンツ交流の拡大に向けた制度構築の問題を考えていく。

4. 今後の研究の推進方策

今後の研究の推進方策であるが、20年度まで東アジアの韓国、台湾、香港、シンガポールの映像関連産業などクリエイティブ産業を調査し、分析してきたが、これらの研究成果をまとめて順次論文として発表していきたい。今まで東アジア諸国とともに欧米でも調査を行い、クリエイティブ産業のクラスター内で、創造的環境を形成するために、どのようなネットワークを構築しようとして

いるのか分析してきた。これらの国別の分析において明らかになってきた特徴を類型化し、クリエイティブ産業におけるイノベーションの特性を明らかにしたい。

また各国政府がどのようなイノベーションの「場」を形成しようとしているのか、産業政策と文化政策の両面から調査してきた。クリエイティブ産業発展のためにどのようにナショナル・イノベーション・システムを構築する必要があるのか、特に大学の役割に重点をおいて、産学協同の在り方を明らかにしたい。

さらにグローバル化や ICT 化が進展する中で、東アジアではどのように消費者の意識が変化してきたのか調査も行ってきた。コンテンツの消費に関連し、欧米文化に対する受容性、日本文化に対する受容性、そしてアジア的価値をどのように考えているかといった点に焦点を当てて、東アジアにおけるクリエイティブ産業の国際協力の在り方を考察し、政策提言をまとめたい。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計4件)

①安田武彦「サービス経済の高度化と創造的環境の形成に向けた政策」『商学集志』第78巻第1号、1-29ページ、2008年。査読あり。

②安田武彦「東アジアの経済発展とサービス産業クラスターの育成策」『日本消費経済学会年報』第28集、65-75ページ、2007年。査読あり。

③Ki-an Park and Takehiko Yasuda, 'Response of Management to the Changes in Consumer Trends and Economic Changes in Korea and Japan', *The Study of Business and Industry*, No.23, pp51-68, 2007.

④Takehiko Yasuda, 'Industrial Policy for Service Sector and Sustainable Economic Development in East Asia', *ICKODISA2006*, Korean Distribution Science Association, pp235-251, 2006.

〔学会発表〕(計3件)

①安田武彦「サービス産業の競争力強化とサービス・イノベーションの促進」、日本消費経済学会、2008年9月27日、中央学院大学。

②安田武彦「クリエイティブ産業政策の文化関連産業に対する経済波及効果の考察」日本消費経済学会、2008年6月15日、大阪商業大学。

③安田武彦「サービス経済の高度化と文化資本の形成」、日本消費経済学会、2007年9月29日、北星学園大学。